

や ちょう し ぜん な か い

野鳥は自然の中で生きています



や ちょう あた

野鳥にエサを与えることは、

ほんとう あいちょうかつどう

本当の愛鳥活動ではありません！

気持ちは、わかります！

野鳥にエサを与えることは、一見ほほえましく、野鳥を大切にしている行為に見えます。異常気象などで極端に自然のエサが減ったときなどは、人工的に与えることが必要な場合もあります。

しかし、その結果どうなるか！

しかし、日常的にエサをやることによって、自らエサを見つけて食べる能力が低下し、春になって再び故郷に戻る時期が遅れてしまったり、栄養の偏りや太り過ぎで長時間飛べなくなってしまう鳥もいます。中には、太り過ぎて動きが鈍くなり、簡単にネコなどの天敵に襲われてしまうものもいます。

静かに見守りましょう。

かわいがる気持ちはわかりますが、カモなどの野鳥に対して、安易にエサを与えないよう皆様のご理解・ご協力をお願いします。

野鳥を大切にすれば、むやみに近づかず、自然のまま静かに見守ってください。

カモなどへのエサやりに関する Q & A



太りすぎたカモ？
ほとんど飛べません！

なぜエサをやってはいけないのか？

通常、自然界では水草などを主食とし、パンなどの高カロリーなものはエサにしていません。したがって、高カロリーなエサを食料にすることで栄養が偏り、肥満状態になるカモも少なくありません。太ったカモは動きが鈍くなり、猫などの天敵に襲われて命を落とすことも多くなります。太りすぎて故郷への渡りが遅れるカモも出ています。このようなことは、結果的に生態系を乱すことにつながります。さらに、食べ残しによって水質悪化を招き、水棲動植物の生存にも影響を与えます。

少しなら問題ないのでは？

わずかな量であれば大きな影響は無いと思いがちですが、一人ひとりが少しだけと思っても、100人がエサを与えてしまえば100倍になります。1回のエサやりの背後には何十倍ものエサやりがあると考えする必要があります。

エサやりをやめたら餓死しないか？来なくなってしまうのでは？

エサやりをやめても、自然界で自らエサを探して採るようになります。エサやりをやめたら、元どおり自然の中でエサを採るようになった例が多数あります。自然のエサを採れるところに移動するので、餓死することは考えられません。

こうしたことから、エサを与えてきた場所の生息数は減ると考えられますが、自然のエサで生活できる数が残ります。